

「令和 6 年度経過観察指標に係る年次報告書(案)」の修正について (第 25 回富士山世界文化遺産学術委員会での主な意見)

1. 「6.総括」

・(稲葉委員) 一番初めに今年度の特徴みたいなものをまとめておくのも一つの手かと思う。そこに新たな計画の策定や、いろんな気が付いたこと、次の保存管理計画の改定に必要なこととかをその都度まとめておく。

・(文化庁) 令和 5 年と令和 6 年で、富士吉田市で活動計画を策定した。五合目以上に限らず麓の部分から、これからどういう取り組みをしていくかというのを、連絡協議会を立ち上げて活動しているところなのでぜひ書いていただきたい。

⇒「令和6年度の動向」の項目を設け、新たな取り組みや、包括的保存管理計画に係る動向等について記載。

・(山本アドバイザー) 主要地点への来訪者が増えている状況についてどう評価するかが問われると思うが、総括の記載があいまいである。評価しないことも 1 つの手かもしれないが、評価しておいて、何をすべきかを考えるべきだと思うので、本来はここで懸念される事態だとか警戒すべき状況だとか、ある程度評価が書かれるべきではないか。

⇒来訪者の増加に関して評価を追記。

2. 「参考資料1 定点観測地点からの展望景観の変化 (12)三国山」

・(山本アドバイザー) 山中湖のパノラマ台は最近展望台ができたが、写真だけ見ると開発された印象を受ける。手前側が開発されると強いインパクトがあるので、写真だけ見せて「負の影響はない」というのは違和感がある。「景観的には変化が大きいですが、全体として評価は下がらない」、「地域全体としてみると大きな開発ではない」など書き方があるので、その点は保守的に書かず、積極的に留意すべき点をメモしておくのが、大事なスタンスではないかと思う。

・(加藤委員) 今までは車道脇を歩いて富士山を見ていたが、道路から持ち上がった歩道を歩く形になっており、横を車が通ったときの感覚は全然違う。「景観に影響がない」ではなく、来る人たちに富士山を眺めるのに非常に良い状況を提供しているのだ、というふうには書いてはどうか。

⇒景観変化についてのコメントを修正。